

伝統産業の継承について

佐藤 秀行



〔質問〕伝統工芸品の後継者育成と技術の伝承を促進しなければならぬと思う。

地方創生事業である弥治郎こけし工人の後継者育成を目的とした伝統こけし工人後継者育成事業を、今後とも継続してほしいと考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕東北観光復興対策交付金事業の活用も視野に入れ、後継者育成事業とあわせて、本市の伝統産業継承の拠点、体験観光の拠点として海外からの観光客の増加を目指していきたくと考えている。

来年度においても、伝統こけし工人後継者育

成事業が継続できないか協議を進めているところである。

◎大学との交流・連携について

〔質問〕今年度、市内3中学校で東北生活文化大学による美術の出席授業が行われた。

今後ともスポーツ、文化、芸術、教育などの様々な分野で交流を深めていくことが交流人口の拡大、地域の活性化にもつながっていくものと思う。

各大学、また大学生との交流を図る取り組みを、今後とも進めていきたいと思います。市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕大学は専門的で幅広い知見を有しており、各種分野で連携を図り交流を深めていくことは、市政運営の

面からも重要であると考えている。

今後、いろいろな可能性を検討しながら、連携・交流を進めていきたい。

◎学力向上プロジェクト事業について

〔質問〕この事業に至った経緯、この事業にかける思いを伺う。

〔答弁〕〔教育長〕本市における学力向上は喫緊の課題であると認識しており、そのためにも子ども一人一人の学力の伸びを客観的データとして把握できる本調査は優れていると考え、実施の判断に至った。

この学力学習状況調査は埼玉県と共同で行うが、本市においては、この調査から得られるデータをもとに宮城県教育委員会の指導、支援を得て、市としての改善策をまとめ、教師一人一人の授業改善等につなげていきたいと考えている。

行財政改革について

松野 久郎



〔質問〕行財政改革推進計画の基本方針である「安定的な財政基盤の確立のうち「自主財源確保」の取り組み状況、実績を伺う。

〔答弁〕〔行政改革推進室長〕各改革項目について取り組みを行い、実績例として未利用財産の売却、貸与の推進では、土地の売却5件で5千121万円の売却実績があった。

また、企業誘致による税収の確保として、白石インター工業団地内での物流センターの事業開始、新たな収入の確保として、ふるさと納税の促進を図り、平成28年度から平成30年12月までで約6千万円の寄

附実績となった。今後も新たな収入の確保等の取り組みを継続強化していく。

〔質問〕一般財源が減少傾向となる中、今後の取り組みべき事業の優先順位の考え方について所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕地域の活力と賑わいを創出し「市民の笑顔あふれる白石」を実現していくため、将来的ビジョンを描きながら、20年、30年後のまちづくりを見据えた施策を展開し、選択と集中によるメリハリのあ

る行財政運営により、持続可能な効率的で質の高い行政サービスを維持していく。

また、インフラ・ハード整備についても、地域間の公平性、緊急性、重要性を検証し、優先順位を決定していきたい。

◎森林環境譲与税(仮称)について

〔質問〕平成30年度税制改正大綱において、森林環境譲与税が平成31年度から開始されることを踏まえ、本市の譲与税額の見込みについて伺う。

〔答弁〕〔農林課長〕本市の譲与税額は、私有林人工林面積などから県試算額として、平成31年度は1千万6千円と見込んでいる。

初年度は、森林所有者の意向調査準備が中心となり、地域林政アドバイザーの委嘱や対象森林の選定に充てる費用などを予算化し、進めていきたい。

【その他の質問】

◎有害鳥獣被害対策とイノシシに特化した駆除及び生息状況調査について

◎小学校の統合後の状況及び中学校統廃合の準備状況について